

記者発表(配付)資料

令和6年4月5日

所属部課	部長	館長	担当	連絡先
萩市商工観光部 萩博物館	村田卓二	大槻洋二	川原康寛	0838-25-6447

件名	萩博物館調査研究報告書第19号の発行について
----	------------------------

萩博物館では、例年、学芸職員の調査研究活動の成果を市民に広く還元するため、『萩博物館調査研究報告』を発行しています。この度、第19号を発行しましたので、お知らせします。

1. 書籍名：萩博物館調査研究報告 第19号 (ISSN1880-7992)

2. 内 容：

【自然科学】

1) 萩を含む山口県日本海沿岸における2004年以降20年間のタカラガイ科貝類の採集記録：— その1: 2004～2008年の記録

執筆者：堀 成夫・栗屋眞明・伊藤治美・植木功子・小野哲志・角村邦江・末永美智子・西村重代・吹上修身・山本憲二・景由武彦

概 要：NPO 萩まちじゅう博物館等と協働で実施してきた山口県日本海沿岸のタカラガイ類の採集調査のうち、2004～2008年の結果を集計したところ、計26種91771個体が認められた。そのうち、採集直後に口頭発表しただけとなっていたナツメドキほか6種8個体の写真と計測値を報告した。

【人文科学】

2) 歴史展示へのマンガ導入の試み

—萩博物館企画展「古写真で見る幕末明治 海外渡航者編」を事例に—

執筆者：道迫真吾

概 要：萩博物館は、令和5年(2023)春に開催した企画展で、歴史系展覧会においては初めての試みとして、完全オリジナルのマンガを制作・展示した。歴史的背景の説明は複雑かつ難解になりがちだが、マンガを用いたことにより、古写真に秘められたストーリーをわかりやすく来館者に伝えることが可能になったことなどを紹介した。

3)「俗論派」の意見書

執筆者：一坂 太郎

概要：元治元年（1864）後半、禁門の変後の長州藩では激しい内訌が行われた。その結果勝利した「正義」は「俗論」の史料を徹底して抹消したとされる。ところがこの度、「俗論」の意見書が見つかり、その主張の一端が明らかになった。本稿はその解説と翻刻だが、「正義」が編んだ歴史とは異なる点に注目頂きたい。

4) 島根県における裂織・紙布・藤布の分布（一）

執筆者：松尾 優平

概要：これまでは萩地域及び山口県内における分布状況を市町村史誌や民俗調査の記述から調査し、その結果を報告した。本稿では、萩地域を含む山口県との共通点等を見出すため、調査地域を広げ萩地域に隣接する島根県西部の石見地域を対象に、かつての衣生活の様相を示す裂織や紙布といった特徴的な衣料に関する記述を各地の市町村史誌等から抽出し、その分布状況を報告した。

3. 編集・発行：萩博物館

4. 価格：1,240 円（萩博物館ミュージアムショップにて販売）

5. 発行日：令和 6 年（2023）3 月 26 日

6. 仕様：A4 版、56 ページ、250 部

※報告書については、部数に限りがあるため、記者クラブ室に閲覧用を置いています。